

御袖章(五帖第十二通)

当流の安心のおもむきを・くわしくしらんとおもわんひとは、あな
がちに智慧才学もいらず・ただわが身は罪ふかきあさましきもの
なりとおもいとりて、かかる機までもたすけたまえるほとけは、
阿弥陀如来ばかりなりとしりて、なにのようもなく・ひとすじにこ
の阿弥陀ほとけの御袖に・ひとすがりまいらするおもいをなして、
後生をたすけたまえとたのみもうせば、この阿弥陀如来はふかく
よろこびましまして、その御身より、八万四千のおおきなる光明
を放ちて、その光明のなかにその人を、摺め入れておきたまうべし、
されば、このころを經には、光明遍照十方世界、
念仏衆生摺取不捨とは説かれたりとこころうべし、さてはわが

身のほとけに成らんずることは、なにのわずらいもなし、あら殊勝
の超世の本願や、ありがたの弥陀如来の光明や、この光明の縁
にあいたてまつらずは、無始よりこのかたの無明業障のおそろし
き、病のなおるといふことは、さらにもつてあるべからざるものなり、し
かるに、この光明の縁にもよおされて、宿善の機ありて、
他力信心ということをばいまずでにえたり、これしかしながら
弥陀如来の御かたより、さずけましましたる信心とは、やがてあ
らわにいられたり、かるがゆえに、行者のおこすところの信心にあ
らず、弥陀如来他力の大信心ということはいまこそあきらかに
いられたり、これによりて、かたどけなくもひとたび他力の信心
をえたらん人はみな、弥陀如来の御恩をおもいはかりて、
仏恩報謝のために、つねに称名念仏を、申したてまつるべきものな

り、

あなかしこ

あなかしこ

御袖章の大意

浄土真宗の信心のいわれをくわしく知りたいと思う人は、こ
とさらに智慧も学識もありません。ただ自分は罪深いものである
と知り、このようなものまでもお救いくださるみ仏は、阿弥陀如
来だけであると信じて、ただひとすじに、このみ仏のお袖にすがる
ような思いで、後生をおたすけくださいとおまかせするならば、み仏
は深くお喜びになり、八万四千の光明を放って、その光明の中

におさめとってくださいます。

そのことを『観經』には、「光明遍照十方世界 念仏衆生
撰取不捨」と説かれています。ですから、私が仏になることにはな
んの心配もありません。なんと世に超えすぐれた本願であり、な
んとありがたい阿彌陀如来の光明でしょう。この光明の縁に遇
えなかったならば、はかりしれない昔からつくり続けてきた罪のさ
わりも決して消えることはありません。いまこの光明のはたらきに
より、如来のお育てをいただき、他力の信心を得ることができま
した。この信心も、自分の力でおこす信心ではなく、まったく阿彌
陀如来から与えられたものであることがはっきりとわかります。そ
こで、他力の信心を得た人は、阿彌陀如来のご恩を心にかけて、
常に仏恩報謝の念仏を申すべきです。